

緩和ケア診療部

臨床医・ホスピタリストに必須

緩和ケア診療部で学ぶことは、患者をトータルに診る姿勢・態度、疼痛を始めとする症状緩和、予防を含むせん妄への対応、栄養、睡眠など病院生活への配慮、自宅での生活を支える医療やケアとの連携など、臨床医・ホスピタリストである限り必須かつ長い医師生活のベースとなる本質的な事項ばかりです。良き医師となるために、早い段階で研修することをお勧めします。

幅広い対応力が身につく

臓器別診療体制が組まれる中、緩和ケアは組織横断的、分野横断的な活動の最たるものです。いわゆる疼痛緩和においてすら、薬物療法に留まらず、非薬物的なケア、精神科的治療、心理的カウンセリングの要素、神経ブロック、果ては痛みの哲学的解明に至るまで、利用できる方法があれば、分野をまたがって使用します。この実践を通して幅広い対応力が養われます。

全国トップクラスの症例数

緩和ケア診療部の臨床実践の主体は緩和ケアチームによるコンサルテーションです。依頼患者数（のべ）年間600件という数は、全国でもトップクラス、2チーム制を引いている緩和ケアチームも数えるほどです。全国でも最も活動性の高い緩和ケアチームのひとつです。当然、経験できる症例数もトップクラス。全国20施設程しかない厚労省の緩和ケアチーム実地研修指定病院です。

多職種チーム医療の実感

チーム医療の重要性が叫ばれて久しいですが、実際には多職種のフェアな関係性のチーム医療を経験することは意外と難しいことです。緩和ケア診療部では、医師がイニシアチブをとりながらも、それぞれの職種の強みを生かしたチーム医療を行っています。多職種チーム医療を実感をもって経験できる場合は、緩和ケアチームが最も向いています。もちろん、研修医もチームの一員です。

レベルと自由度の高い研修プログラム

緩和医療の専門医はまだ全国に200名弱しか存在しませんが、当院ではそのうち2名がおり、専門的な研修指導に当たります。大学病院の研修では、コンサルテーション型緩和ケアを主体として経験を積むことが可能。1か月から12か月で自由に研修を組めます。（もちろん入局も可能）希望があれば、在宅医療の研修、ホスピスでの研修、サイコロジの研修を調整することが可能です。

社会活動としての緩和ケア

患者さんの生活や人生を支えるためには、医療の枠に捉われてはいけません。緩和ケアをすることは、ある意味で社会をよくすることでもあります。医療の枠、介護福祉の枠も超えた社会活動を行っています（ケア・カフェや絵本の作成、プレゼンテーションクラブなど）。ゆくゆくは社会活動にも関わりたいと思っている人に対しては、そのノウハウを教えることもできます。

多彩な研究活動

緩和ケア診療部では競争的資金を獲得し、様々な研究活動を行っています。量的研究はもちろん、質的研究を多く行っているのが特徴です。こうした実証研究に留まらず、理論研究を行っているところは医学部ではほぼないでしょう。研究のテーマは痛み、意思決定（支援）、プロフェッショナリズム教育、地域連携、当事者研究など様々です。

こんな人におすすめ！

- ・臨床やるなら病棟での患者管理はきちんとできるようになりたいと思っている人
- ・全人的に患者を診れるようになりたいと考えている人
- ・良いチーム医療の実際を体験してみたいと思っている人
- ・医療の枠を越えて、社会に働きかけをしたいと望んでいる人
- ・ポスター見て「面白そう」と感じた人